

『ゴージャスお宝鑑定家〜』う〜  
ん、ゴージャス!」5』

---

プロローグ…剛田質店の朝(15分)

【場面…剛田質店 店内】

(剛田がティーカップ片手に語りながら、豪華な店内を優雅に見回している。白金はカウンターで帳簿整理中。)

剛田…「白金、この店はただの質店ではない。ゴージャスを扱う聖地なのだ。」

白金…「はいはい、店長の“聖地”ね。こないだ普通のお客さん、『入りづらい』って言ってましたけど。」

剛田…「分からぬ者は仕方ない。それこそ“ゴージャス”たる者の宿命だ!」

白金：「宿命って…単に店が派手すぎるだけじゃ。」

（剛田が突然立ち上がり、天井のシャンデリアを指差す。）

剛田：「見よ、このシャンデリアを！これもまた、ゴージャスの象徴だ！」

白金：「いや、それただの電気代の塊ですよね？」

（剛田がにっこり微笑む。）

剛田：「白金、ゴージャスにかかるコストを惜しむな。それは人生をケチるのと同じだ！」

白金：「いやいや、人生ケチってませんけど。」

（そこにお客さんが大きな箱を抱えて入店。）

剛田、すかさず反応する。）

剛田：「おや？新たなるゴージャスの香りが！」

白金：「（小声で）香りじゃなくて重量感でしょ、これ。」

---

第一幕：お宝との出会い（30分）

【場面：剛田質店 店内】

（客が箱を置き、慎重に蓋を開ける。中から現れたのは、光沢のあるガーネット置！）

剛田：「これは…！ うん、ムージャス！」

白金：「…いやいや、これ置ですよ？ 硬いし、重そうだし。」

客：「これ、祖父が昔コツコツ集めたガーネットを、畳職人に頼んで作ったんです。遺品整理してたら出てきて…。」

白金：「（困惑気味）いや、どういう発想で作ったんですかそれ。」

剛田：「素晴らしい！まさに“情熱”と“伝統”の融合だ！」

白金：「情熱と伝統って、ただ足痛くなりそうなだけじゃ…」

剛田：「ガーネットは“変わらぬ愛”を象徴する宝石だ。この畳の上に座れば、己の心を磨けるだろう！」

白金：「いや、心よりお尻が磨り減りそうですけど。」

客：「（困惑しつつ）あの…これ、買い取っていただけるんでしょうか？」

（剛田、畳を持ち上げるフリをして、語り始める。）

剛田：「これは単なる畳ではない。日本文化と鉱物学の神秘の結晶だ！」

白金：「（小声で）結晶ってどうか、ただの重い石ですよ。」

剛田：「白金、宝石の価値を見誤るな！古代エジプトの王たちも、このような石の床の上で日々を過ごしていたのだ！」

白金：「（驚きつつ）いや、それただの石棺でしょ？」

（剛田、さらに熱弁を続ける。）

剛田：「この畳は、ただの家具ではない。人生そのものを変える試練の舞台だ！」

---

## 第2幕：実用性テスト（35分）

### 実験その一：茶道

（剛田、畳の上に茶道セットを広げ、正座を試みる。）

剛田…「これぞ日本文化の極み！ゴージャスの上で飲む抹茶は格別だ！」

（正座した瞬間、痛みに顔を歪めるが、無理やり笑顔を保つ。）

剛田…「ふむ…この痛み！これが真の“心の平穩”を得る試練！」

白金…「いやいや、平穩どころか災難ですよ。ね。」

実験その②…昼寝

（剛田、昼寝を提案し、畳の上に横になる。）

剛田…「ガーネットのエネルギーを全身で吸収するのだ！」

（寝転んだ瞬間、ゴツゴツした感触に悶絶する剛田。）

剛田…「おお…背中に伝わるこの“重圧”。これぞ人生！」

白金：「呆れ気味に」いや、単に硬いだけで  
すよね？」

実験その3：瞑想

剛田：「最後は瞑想だ。この畳の上で心を無  
にする！」

（剛田、座禅を組むが、硬さに耐え切れず頻  
繁に体勢を変える。）

白金：「（ツツコミながら）店長、それもう瞑想  
じゃなくて“迷走”ですよ。」

---

第3幕：値段交渉と未来構想（25分）

剛田：「これほどの品なら、50万円は妥当  
だ。」

白金：「（驚愕して）50万！？いやいや、高  
すぎでしょ！誰が買います？」

剛田：「白金、値段とは価値の象徴。安くすることは、この畳のゴージャスを否定することだ！」

白金：「いや、それ買い取っても誰も使わないですよ！」

（客が感化され、「50万でお願いします」と頭を下げる。）

白金：「（小声で）本当に買い取るの？絶対置き場に困りますよ…。」

剛田：「置き場？それは店の中心に決まっている！」

---

エピローグ：質店の新象徴（五分）

【場面：剛田質店 店内・入り口】

（剛田、畳を店の入り口に敷き、「新しいゴージャスの幕開けだ！」と宣言。）



剛田：「この畳を踏む全ての者が、ゴージャスの波動を受ける！」

白金：「いや、絶対みんな足痛いって言いますよ。」

（外を通る人々が立ち止まり、「何これ？」と驚く声が聞こえる。）

剛田：「こうして剛田質店は、また一つゴージャスの歴史を刻んだ。」

白金：「（小声で）歴史っていうか、ただの迷惑じゃ…。」

## 改訂後の尺割と各シーンのポイント

ト

全体構成の尺は約 85分 を想定しています。以下はシーンごとの尺割と内容ポイントです。

---

プロローグ：剛田質店の朝（15分）

・ 尺：15分

・ ポイント：

1. 剛田の「ゴージャス理論」を披露。

2. 剛田と白金の掛け合い（剛田の独特な思想 vs 白金の常識的なツツコミ）。

3. 店の雰囲気説明（豪華すぎる内装など）。

4. お客様さんの登場。ガーネット置の「謎のお宝」を持ち込む。

・ 目的：

○ 世界観とキャラクターの性格を説明。

○ コメディの雰囲気を作り出す。

○ お宝との出会いで物語を動かす。

第一幕：お宝との出会い(30分)

・ 尺：30分

- ガーネット壘を発見し、剛田が「ゴージャス理論」で絶賛。
- 白金はその価値や実用性に疑問を抱き、理論的なツツコミを展開。
- 剛田の熱弁が炸裂(ガーネットの石言葉や歴史的背景などを語る)。
- 客は困惑しつつ、剛田の説得力(？)に納得し始める。

5. 剛田の石言葉解説：

「ガーネットは“変わらぬ愛”の象徴だ！その愛をこの壘は受け継いでいる…」

「これぞ、人生の“基盤”としての  
ゴージャス！」

6. 白金の反応：

「いやいや、基盤どころか座るだけ  
でお尻痛めますよ！」

「これ普通の人を買うと思いま  
す？」

7. 客のエピソード：

「祖父が宝石収集家だったんです  
けど、なぜ置にしたのかは不明で  
…」

(白金：「おじいさん、やりたい放  
題ですね…」)

・ 目的：

- ガーネット置の背景を掘り下げ  
る。
- 剛田と白金の掛け合いでコメディ  
要素を強調。
- お宝の魅力を剛田が「謎理論」で  
高め、ストーリーを次に進める。

---

## 第2幕：実用性テスト(35分)

### ・尺：35分

- 剛田が「ガーネット畳」の実用性を証明しようと奮闘。
- 白金のツツコミや客の困惑を交えつつ、試行錯誤のコメディを展開。

## 実験の詳細：

### 1. 茶道体験(10分)

- 剛田が「ゴージャスな茶道」を提案し、正座で抹茶を点てる。
- 痛みに耐えながら「試練こそが美学」と豪語するも、白金から「ただの苦行」と指摘される。

### 2. 昼寝体験(10分)

- 畳の上で昼寝を試すが、硬さに耐え切れず剛田が悶絶。

- 「ガーネットの波動を全身で感じられる！」と言う剛田に対し、白金は冷静に「波動じゃなくてただの痛み」。

### 3. 瞑想（15分）

- 剛田が「瞑想用畳」として新しい提案を実施。
- 硬さにより姿勢が保てず「迷走状態」に陥る剛田を白金が「それ瞑想じゃなくて迷走！」とツッコむ。

### ・ 目的 ..

- 実用性のなさを笑いに変え、キャラクターの対比を際立たせる。
- 剛田の「ゴージャス哲学」と現実のギャップを際立たせる。
- ガーネット畳の使い道を模索する流れを作る。

## 第6幕：値段交渉と未来構想（25分）

- 尺：25分

- 剛田が畳の価値を熱弁し、50万円  
の提示をする。

- 白金が「誰が買うんだ」と冷静に  
反論。

- 客は半信半疑ながら、剛田の説  
得力（？）に感化されて50万円  
で売却を決断。

- 剛田が畳の将来の用途をさらに熱弁。

「この畳の上でプロポーズをすれば、永  
遠の愛が叶う！」

「未来の社交界の必須アイテムだ！」

- 白金が実現性ゼロの構想にツツコミを入  
れ続ける。

- 目的：

- コメディ的なテンポを維持しながら物語を収束させる。
  - 剛田のゴージャス哲学が、周囲を巻き込む力を持つことを強調。
- 

### エピソード：質店の新象徴（15分）

- ・ 尺：15分

- 購入した畳を店の入り口に敷き、「剛田質店の新たなシンボル」として披露。

○ 通行人の「何これ!？」という驚きの声で締めくくる